

白石地区「花の中の写真展」



白石地内において4月2日(日)から23日(日)まで、東秩父写友会主催の「花の中の写真展」が開催されました。白石地区はこの時期、たくさんのいろいろな花々

にかこまれ、ハイカーが多く訪れます。開催当初は知らない方も多かったようですが、ぐうぜん通りかかった方々の目に留まり、今では写真を楽しみに訪れる方が増え好評です。「こんな素敵な場所知らなかった」と、訪れた方々(上写真)は言っていました。今年もファンが増えたようです。

今年度の入園・入学

今年度の園児、児童・生徒数は次のとおりです。

城山保育園

たんぼぼ	7名
もも	10名
チューリップ	14名
ひまわり	5名

槻川小学校

入学	16名
在校生	74名

東秩父中学校

入学	17名
在校生	40名

☆その後、写友会に誘われて入会されたのですよね。今までどんな活動をしてきましたか？

趣味の会ではあるけれど、村の発展のために色々切磋琢磨してきた。郵便局、農産物販売所、老人施設などに展示して、村民はもちろんだと村外の人に村の四季・祭りを見てもらう、さりげなくアピールしているんだ。それがきっかけで東秩父の「よさ」を知ってもらえたらいいじ

☆栗島さんと写真との出会い、お教えください。

オレの若い頃はな、あの時代ではみんながうらやむ「電車通勤」のサラリーマン。目標は「小さい家に可愛い妻と子どもがいて、日曜日は家族とドライブにシヨッピング」。そんな幸せな夢を持って仕事をしてきた。仕事柄カメラを使うことが多く、写真は好きだったんだけど、会社の写真部に優秀な方がいて「写真撮っているのなら入らないか」と声をかけてくれた。それがオレと写真の本当の出会いだったな。



ピクアツプ
村人

☆そんな活動のなか、思いのほか、やない。そんな活動をしているよ。

☆でもそんなさなか、写友会の皆さんはどうか「記録」を残そうというんなカタチで試行錯誤されていると思います。

そうだね。それが我々に与えられた使命だと思っ、東秩父の歴史の「記録」を撮って提供し、「心」に残してあげる。心はいずれ引き継がれて消えないものになると信じているよ。そんな思いの写真、ぜひ見てほしいな。和紙の里文化フェスティバルで写友会も写真を展示するんだ、楽しみにしているよ。

栗島光政さん(御堂・75歳)
写友会では会長を長年務めていらっしゃるようです。写真の腕は確かだ、数々の写真展で賞を受賞されています。今回、インタビューにお応えいただき、その題名を、「オレの人生浪花節」と題していただきました。

あ。今、写真は携帯・スマホで撮れる時代になった。それが悲しい。だって、紙で残らないでしよう？みんな「画面」なんだ。履歴が残らない、記録がなくなる、昔の思い出が薄れる、どれも不安でしょうがない。

栗島光政さん(御堂・75歳)
写友会では会長を長年務めていらっしゃるようです。写真の腕は確かだ、数々の写真展で賞を受賞されています。今回、インタビューにお応えいただき、その題名を、「オレの人生浪花節」と題していただきました。

わしのちやんの
おみせつう



東秩父村・小川町で古くから伝承されている「手すき和紙」のことだよ！その歴史をさかのぼってみると8世紀から使用されていると言われている伝統ある和紙なんだ。

細川紙は、国内産の「楮(こうぞ)」を原料としていて、楮の内側にある長い繊維を流(ながし)すきで絡ませることによってできているんだ。そうしたことですごく丈夫な紙になるの。その丈夫さが細川紙の大きな特徴のひとつなんだ！

来月号では「楮(こうぞ)」についてもう少し詳しく教えるね！！ちなみに！私も細川紙からできているんだよ！^_^ 丈夫で健康！

vol.2「細川紙ってなーに？」